

科目名	エンジン構造		講義	必修
担当教員名	開講年次	単位数	時間数	
村上 昭仁	1年	4	60時間	
前職:自動車整備士			90分×30回	
授業の目的・概要				
自動車用エンジンの基本的な作動と構造を学ぶ。				
授業における学修の到達目標				
自動車用エンジンの基本的な作動と構造を習得する。				
成績評価方法・基準				
定期試験の点数を中心に平常点(課題プリント、レポートやノートの提出とその評価、出席及び授業態度)を総合的に評価する。試験100%、平常点10%の範囲で、総合的に評価する。				
授業計画			授業外の学修の内容	
1 第4章 エンジン本体(3級)	16 第1章 エンジン本体(2級)	準備学習の内容・時間 教科書、配布資料、参考文献を使用し必要に応じて予習をする。 (30時間)		
2 第4章 エンジン本体(3級)	17 第1章 エンジン本体(2級)			
3 第4章 エンジン本体(3級)	18 第1章 エンジン本体(2級)			
4 第4章 エンジン本体(3級)	19 第1章 エンジン本体(2級)			
5 第4章 エンジン本体(3級)	20 第1章 潤滑装置(2級)	事後学修内容・時間 小テストや配布資料を使い復習する。授業の内容をレポートにまとめる。(30時間)		
6 第4章 潤滑装置(3級)	21 第1章 潤滑装置(2級)			
7 第4章 潤滑装置(3級)	22 第1章 冷却装置(2級)			
8 第4章 冷却装置(3級)	23 第1章 冷却装置(2級)			
9 第4章 冷却装置(3級)	24 第1章 燃料装置(2級)			
10 第4章 吸排気装置(3級)	25 第1章 燃料装置(2級)			
11 第4章 燃料装置「ガソリン」(3級)	26 第1章 燃料装置(2級)			
12 第4章 燃料装置「ジーゼル」(3級)	27 第1章 吸排気装置(2級)			
13 第4章 排出ガス浄化装置(3級)	28 第1章 吸排気装置(2級)			
14 第5章 予熱装置(3級)	29 第3章 予熱装置(2級)			
15 まとめ	30 まとめ			
テキスト				
三級自動車整備士(総合)		(日本自動車整備振興会連合会)		
二級自動車整備士(総合)		(日本自動車整備振興会連合会)		
参考書・その他				
ガソリン・エンジン構造		(全国自動車整備専門学校協会)		
ジーゼル・エンジン構造		(全国自動車整備専門学校協会)		
FAINES		(日本自動車整備振興会連合会 HP)		

科目名	エンジン制御		講義	必修
担当教員名	開講年次	単位数	時間数	
杉崎 健朗	1年	2	30時間	
前職:自動車整備士			90分×15回	
授業の目的・概要				
エンジンの構造・各種付属装置について電子制御装置を中心に基礎から応用まで学習する。				
授業における学修の到達目標				
電子制御装置の入力・出力・制御について構造・機能を習得する。				
成績評価方法。基準				
定期試験の点数を中心に、出席状況、意欲、態度等により試験80%、平常点20%の範囲で総合的に評価する。またレポートを求める事もある。				
授業計画			授業外の学修の内容	
1 オリエンテーション 総論			準備学習の内容・時間	
2 電子制御装置(3級)			教科書、配布資料、参考文献を使用し、必要に応じて予習を行う。	
3 燃料噴射制御の各種センサ(3級)			(15時間)	
4 燃料噴射制御の各種アクチュエータ(3級)				
5 コモンレール1			事後学修内容・時間	
6 電子制御装置(2級)			教科書、配布資料、ノート等資料を使い復習する。授業の内容をレポートにまとめる。(15時間)	
7 燃料噴射制御系統の各種センサ(2級)				
8 燃料噴射制御系統の各種センサ(2級)				
9 燃料噴射制御系統の各種センサ(2級)				
10 燃料噴射制御の各種アクチュエータ(2級)				
11 燃料噴射制御の各種アクチュエータ(2級)				
12 電子制御ECUの制御と補正 噴射				
13 電子制御ECUの制御と補正 点火				
14 電子制御ECUの制御と補正 回転				
15 定期試験				
テキスト				
三級自動車整備士(総合)			(日本自動車整備振興会連合会)	
二級自動車整備士(総合)			(日本自動車整備振興会連合会)	
参考書・その他				
ガソリン・エンジン構造			(全国自動車整備専門学校協会)	
内燃機関、燃料・油脂			(全国自動車整備専門学校協会)	

科目名	シャシ工学		講義	必修
担当教員名	開講年次	単位数	時間数	
焼田 健二	1年	4	60時間	
前職:自動車整備士			90分×30回	
授業の目的・概要				
自動車のシャシについての基本的知識、自動車の運動及びその性能を学ぶ。				
授業における学修の到達目標				
自動車のシャシについて基本的構造・原理を習得する				
成績評価方法。基準				
定期試験の点数で評価する。授業態度や提出物について加点する場合がある。				
授業計画			授業外の学修の内容	
1 オリエンテーション			準備学習の内容・時間	
2 動力伝達装置			授業に使用するテキスト等で必要に応じて予習をする。(30時間)	
3 動力伝達装置				
4 動力伝達装置				
5 動力伝達装置				
6 動力伝達装置			事後学修内容・時間	
7 動力伝達装置			授業内容をレポートにまとめる等資料を整理し復習をする。(30時間)	
8 動力伝達装置				
9 ブレーキ装置				
10 ブレーキ装置				
11 ブレーキ装置				
12 ブレーキ装置				
13 ブレーキ装置				
14 ブレーキ装置				
15 総括				
16 振り返り				
17 動力伝達装置				
18 動力伝達装置				
19 動力伝達装置				
20 ホイール及びタイヤ				
21 ホイール及びタイヤ				
22 ホイール及びタイヤ				
23 ホイール及びタイヤ				
24 ホイール及びタイヤ				
25 ホイール及びタイヤ				
26 ホイール及びタイヤ				
27 アクスル及びサスペンション				
28 アクスル及びサスペンション				
29 アクスル及びサスペンション				
30 ホイールアライメント				
テキスト				
三級自動車整備士(総合)		(日本自動車整備振興会連合会)		
二級自動車整備士(総合)		(日本自動車整備振興会連合会)		
参考書・その他				
シャシ構造Ⅰ		(全国自動車整備専門学校協会)		
シャシ構造Ⅱ		(全国自動車整備専門学校協会)		
実力判定問題集				

科目名	エンジン電気装置	講義	必修
-----	----------	----	----

担当教員名	開講年次	単位数	時間数
番留 智広	1 年	2	30時間 90分 × 15回
前職:自動車整備士			

授業の目的・概要
近年の自動車技術の進歩は著しく、機能・性能が高度化し技術も複雑になっている。 そこで高度な技術に対応するため、エンジンの電装品装置について学ぶ。

授業における学修の到達目標
エンジンの電装品装置の構造や仕組み、電気の流れを学ぶ。 それらを学ぶ中でEVやハイブリッドのモータやジェネレータの原理まで理解を深める。

成績評価方法。基準
定期試験100%の中で出席、授業態度及びレポートに掛かる平常点を加点10%～減点10%により総合評価する。

授業計画	授業外の学修の内容
1 バッテリについて 概要と構造 2 バッテリについて 充放電反応・特性 3 バッテリについて 充電方法、保守取り扱い 4 始動装置について 概要、部品名称・役割 5 始動装置について 直結型スタータ構造と作動 6 始動装置について P型スタータ構造と作動 7 始動装置について 出力特性 8 充電装置について 概要と構造 9 充電装置について IC式ボルテージ・レギュレータ回路 10 充電装置について 定電圧発電制御、充電制御 11 点火装置について 概要と構造 12 点火装置について プラグと熱価 13 点火装置について 点火時期制御の必要性 14 点火装置について 気筒別独立点火装置 15 後期まとめ	準備学習の内容・時間 テキストや参考書・その他を使用しながら予習をし分からない所を確認する。 (30時間) 事後学修内容・時間 ノートを使い復習する。授業の内容をレポートにまとめる。(30時間)

テキスト
三級自動車整備士(総合) (日本自動車整備振興会連合会) 二級自動車整備士(総合) (日本自動車整備振興会連合会)

参考書・その他
電装品構造 (全国自動車整備専門学校協会)

科目名	シャシ電気装置		講義	必修
担当教員名	開講年次	単位数	時間数	
村上 昭仁	2年	2	30時間	
前職:自動車整備士			90分×15回	
授業の目的・概要				
自動車電機装置の内のボデー電装の構造と機能を学ぶ。				
授業における学修の到達目標				
自動車電機装置の内のボデー電装の構造と機能を習得する。				
成績評価方法。基準				
定期試験の点数を中心に平常点(課題プリント、レポートやノートの提出とその評価、出席及び授業態度)を総合的に評価する。試験100%、平常点10%の範囲で、総合的に評価する。				
授業計画		授業外の学修の内容		
1 オリエンテーション		準備学習の内容・時間		
2 シャシ電気装置 灯火装置		教科書、配布資料、参考文献を使用し必要に応じて予習をする。		
3 シャシ電気装置 灯火装置		(15時間)		
4 シャシ電気装置 計器				
5 シャシ電気装置 計器		事後学修内容・時間		
6 ホーン、ウインドウシールド・ワイパ及びウインドウシールド・ウォッシャ		小テストや配布資料を使い復習する。授業の内容をレポートにまとめる。(15時間)		
7 冷暖房装置				
8 冷暖房装置				
9 冷暖房装置				
10 冷暖房装置				
11 電気装置の配線				
12 電気装置の配線				
13 警報装置				
14 警報装置				
15 まとめ				
テキスト				
三級自動車整備士(総合)		(日本自動車整備振興会連合会)		
二級自動車整備士(総合)		(日本自動車整備振興会連合会)		
参考書・その他				
電装品構造		(全国自動車整備専門学校協会)		
FAINES		(日本自動車整備振興会連合会 HP)		

科目名	自動車の力学・数学A		講義	必修
担当教員名	開講年次	単位数	時間数	
岩田 敏裕	1年	2	30時間	
前職：自動車整備士			90分×15回	
授業の目的・概要				
自動車のトルク、出力、ギヤ比等の各種計算、電気の基礎知識及び道路運送車両法に基づく重量、軸重計算等について学習する。				
授業における学修の到達目標				
自動車のトルク、出力、ギヤ比等の各種計算、電気の基礎知識及び道路運送車両法に基づく重量、軸重計算等について習得する。				
成績評価方法。基準				
定期試験、平常点（出席、授業態度、レポート、小テスト等）の内容を総合的に評価する。 定期試験70%、平常点30%				
授業計画			授業外の学修の内容	
1 オリエンテーション 導入確認テスト			準備学習の内容・時間	
2 電気の計算			教科書、配布資料、参考文献を使用し必要に応じて予習をする。	
3 力と摩擦			(15時間)	
4 仕事とエネルギー				
5 てこの原理 力のモーメント・重心			事後学修内容・時間	
6 荷重の計算			小テストや配布資料を使い復習する。授業の内容をレポートにまとめる。(15時間)	
7 荷重の計算				
8 速度と加速度				
9 前回までのまとめと練習問題				
10 圧力と応力				
11 バルブタイミングと点火順序				
12 熱力学、温度、線膨張				
13 走行性能				
14 練習問題				
15 纏め				
テキスト				
計算問題を解くノウハウ			(精文館)	
三級自動車整備士(総合)			(日本自動車整備振興会連合会)	
二級自動車整備士(総合)			(日本自動車整備振興会連合会)	
参考書・その他				

科目名	自動車の力学・数学B		講義	必修
担当教員名		開講年次	単位数	時間数
岩田 敏裕		2年	2	30時間 90分×15回
前職:自動車整備士				
授業の目的・概要				
変速比と回転速度・トルク・駆動力・出力について学習する。 合わせて、国家試験に出題される計算問題を解くノウハウを身に付ける。				
授業における学修の到達目標				
変速比と回転速度・トルク・駆動力・出力について理論的に考える力を付ける。 合わせて、国家試験に出題される計算問題が解ける。				
成績評価方法。基準				
定期試験、平常点(出席、授業態度、レポート、小テスト等)の内容を総合的に評価する。 定期試験70%、平常点30%				
授業計画			授業外の学修の内容	
1 オリエンテーション 力数Aの復習			準備学習の内容・時間	
2 ギヤ比(変速比)			教科書、配布資料、参考文献を使用し必要に応じて予習をする。	
3 同上(中間2段ギヤ) マニュアルミッション			(15時間)	
4 練習問題				
5 プラネタリギヤ 1			事後学修内容・時間	
6 プラネタリギヤ 2			小テストや配布資料を使い復習する。授業の内容をレポートにまとめる。(15時間)	
7 性能曲線				
8 性能曲線				
9 走行性能				
10 性能トータル(エンジン～タイヤ)				
11 性能トータル(エンジン～タイヤ)				
12 振動騒音の基礎				
13 振動騒音の基礎				
14 練習問題				
15 纏め				
テキスト				
計算問題を解くノウハウ		(精文館)		
三級自動車整備士(総合)		(日本自動車整備振興会連合会)		
二級自動車整備士(総合)		(日本自動車整備振興会連合会)		
参考書・その他				

科目名	電気・電子理論		講義	必修
担当教員名	開講年次	単位数	時間数	
番留 智広	1年	2	30時間	
前職:自動車整備士			90分×15回	
授業の目的・概要				
近年の自動車技術の進歩は著しく、機能・性能が高度化し更に複雑になってきている。 この科目では高度な技術に対応するための基本である電気・電子の理論について学ぶ。				
授業における学修の到達目標				
自動車の電装部品の基本的な原理について知識を深め、その後に学ぶエンジン電気装置の基礎固めをする。				
成績評価方法。基準				
定期試験100%の中で出席、授業態度及びレポートに掛かる平常点を加点10%～減点10%により総合評価				
授業計画		授業外の学修の内容		
1 オリエンテーション 自動車の電装品について		準備学習の内容・時間		
2 電気の基礎 概要 電流・電圧・抵抗について		テキストや参考書・その他を使用し		
3 電気の基礎 オーム、キルヒホッフの法則について		ながら予習をし分からない所を確		
4 電気の基礎 回路内の電流・電圧・抵抗の計算		認する。		
5 電気の基礎 コンデンサ、電力及び電力量		(30時間)		
6 電気の基礎 許容電流と回路保護		事後学修内容・時間		
7 磁気の基礎 電流と磁界の関係、各法則		ノートを使い復習する。授業の内容		
8 磁気の基礎 電磁誘導作用について		をレポートにまとめる。(30時間)		
9 磁気の基礎 自己誘導作用、相互誘導作用				
10 半導体の基礎 半導体の種類と特質				
11 半導体の基礎 ダイオード各種、トランジスタなど				
12 半導体の基礎 半導体を使った回路、論理回路				
13 モータ (motor) と発電機 モータの原理				
14 モータ (motor) と発電機 発電機の原理				
15 前期まとめ				
テキスト				
電装品構造		(全国自動車整備専門学校協会)		
参考書・その他				
三級自動車整備士(総合)		(日本自動車整備振興会連合会)		
二級自動車整備士(総合)		(日本自動車整備振興会連合会)		

科目名	自動車材料		講義	必修
担当教員名	開講年次	単位数	時間数	
杉崎 健朗	1年	2	30時間	
前職:自動車整備士			90分×15回	
授業の目的・概要				
自動車に使用される各種材料の特徴・物性を把握し、金属・合金・非金属・複合素材についての知識を深める。 又、国家試験の出題傾向に対応できるようにする。				
授業における学修の到達目標				
自動車の使用材料について、特徴と長所短所を理解し、素材として使用される理由を把握応用できるようになる。				
成績評価方法。基準				
定期試験の点数を中心に、出席状況、意欲、態度等により試験80%、平常点20%の範囲で総合的に評価する。 またレポートを求める事もある。				
授業計画		授業外の学修の内容		
1 オリエンテーション 総論		準備学習の内容・時間		
2 金属の性質 試験法 検査法		教科書、配布資料、参考文献を使用し、必要に応じて予習を行う。		
3 鉄鋼材料		(15時間)		
4 鋳鉄		事後学修内容・時間		
5 鋼		教科書、配布資料、ノート等資料を使い復習する。授業の内容をレポートにまとめる。(15時間)		
6 熱処理				
7 表面硬化 鋼板				
8 特殊鋼				
9 非鉄金属1				
10 非鉄金属2 焼結金属				
11 非金属 樹脂 ゴム ガラス				
12 セラミック 摩擦材				
13 合成樹脂 合成繊維 複合材料				
14 塗料				
15 確認テスト				
テキスト				
自動車材料		(全国自動車整備専門学校協会)		
参考書・その他				
基礎自動車工学		(日本自動車整備振興会連合会)		
三級自動車整備士(総合)				
二級自動車整備士(総合)				

科目名	燃料・潤滑剤		講義	必修
担当教員名	開講年次	単位数	時間数	
杉崎 健朗	1年	2	30時間	
前職:自動車整備士			90分×15回	
授業の目的・概要				
自動車に使用される燃料、油脂、潤滑剤について学ぶ。				
授業における学修の到達目標				
燃料の製法と規格、各種潤滑剤・潤滑油・作動油の製法・性状・規格・用途について習得する。				
成績評価方法。基準				
定期試験の点数を中心に、出席状況、意欲、態度等により試験80%、平常点20%の範囲で総合的に評価する。またレポートを求める事もある。				
授業計画			授業外の学修の内容	
1 オリエンテーション 総論(燃料)			準備学習の内容・時間	
2 石油の精製法 油種			教科書、配布資料、参考文献を使用し、必要に応じて予習を行う。	
3 ガソリンの製法			(15時間)	
4 ガソリンの性状 添加剤			事後学修内容・時間	
5 軽油・LPガスの製法			教科書、配布資料、ノート等資料を使い復習する。授業の内容をレポートにまとめる。(15時間)	
6 軽油・LPガスの性状と規格				
7 摩擦・潤滑とは 状態 作用				
8 潤滑油の製法 性状				
9 エンジンオイル 規格 分類 添加剤				
10 エンジンオイル				
11 ギヤオイル、添加剤				
12 グリース 特徴 分類				
13 その他の潤滑剤				
14 作動油について				
15 ブレーキフルードとクーラントについて				
確認テスト				
テキスト				
内燃機関、燃料・油脂 (全国自動車整備専門学校協会)				
参考書・その他				
三級自動車整備士(総合)		(日本自動車整備振興会連合会)		
二級自動車整備士(総合)		(日本自動車整備振興会連合会)		
基礎自動車工学		(日本自動車整備振興会連合会)		

科目名	図面		講義	必修
担当教員名	開講年次	単位数	時間数	
岩田 敏裕	1年	1	16時間 90分×8回	
前職:自動車整備士				
授業の目的・概要				
図面は自分の考えた物体の形状、機能および材料などを間違いなく他人に伝える手段である。 そのためには形状や材質を表現する共通のルールが必要となる。 ここでは、共通のルールを学ぶとともに機械製図の基礎から、自動車電気配線等について学習する。				
授業における学修の到達目標				
テキスト、練習ノートを中心に進め、頭の中に立体をイメージできる。また、電気配線図から、電流の流れや電圧の変化を理解して作業に活用できる。				
成績評価方法。基準				
定期試験、平常点(出席、授業態度、レポート、小テスト等)の内容を総合的に評価する。 定期試験70%、平常点30% 尚、定期試験に変えて、レポートを求めることもある。				
授業計画			授業外の学修の内容	
1 オリエンテーション 2 図面の名称 3 図面の大きさ及び様式 4 製図に用いる線 5 図形の表し方 6 図面の見方 7 電気製図 8 まとめ			準備学習の内容・時間	
			教科書、配布資料、参考文献を使用し必要に応じて予習をする。 (8時間)	
			事後学修内容・時間	
			小テストや配布資料を使い復習する。授業の内容をレポートにまとめる。(8時間)	
テキスト				
二級自動車整備士(総合) (日本自動車整備振興会連合会)				
参考書・その他				
練習ノート				

科目名	エンジン整備		講義	必修
担当教員名	開講年次	単位数	時間数	
杉崎 健朗	2年	4	60時間	
前職：自動車整備士			90分×30回	
授業の目的・概要				
自動車の各部位を構成する装置及び部品又車両全体を総合的に、点検・整備する方法、技術的ポイント及びその必要性を講義を通じて学び、整備士として個々の車両に適切な整備を行う知識を養う。				
授業における学修の到達目標				
テキストや適宜資料を配布したり、視聴覚教材等を使用し講義をする。				
成績評価方法。基準				
試験、平常点(出席状況、意欲、授業態度等)により総合的に評価する。定期試験80%平常点20% また試験に変えてレポートを求める事もある。				
授業計画			授業外の学修の内容	
1 総論	16 オイル交換の詳細知識	準備学習の内容・時間 教科書、配布資料、参考文献を使用し、必要に応じて予習を行う。 (30時間)		
2 冷却装置、吸排気装置	17 オイルの製品知識			
3 エンジン本体	18 冷却系トラブルの対応	事後学修内容・時間 教科書、配布資料、ノート等資料を使い復習する。授業の内容をレポートにまとめる。(30時間)		
4 エンジン性能と排ガス対策	19 燃料系トラブルの対応			
5 分解整備記録簿	20 振動・騒音・異音の対応			
6 法定点検作業の心構え	21 重大故障の対応			
7 電子制御燃料噴射装置	22 季節の故障の対応			
8 電子制御燃料噴射装置	23 潤滑・油脂系トラブルの対応			
9 電子制御燃料噴射装置	24 潤滑・油脂系トラブルの対応			
10 電子制御燃料噴射装置	25 配線修理の基礎知識			
11 電子制御燃料噴射装置	26 整備の心構えとアドバイス			
12 電子制御燃料噴射装置	27 整備の心構えとアドバイス			
13 修理の流れ	28 事例解説			
14 修理の流れ	29 事例解説			
15 エンジン始動困難への対応	30 まとめ・試験対策			
テキスト				
三級自動車整備士(総合)		(日本自動車整備振興会連合会)		
二級自動車整備士(総合)		(日本自動車整備振興会連合会)		
参考書・その他				
FAINES		(日本自動車整備振興会連合会 HP)		

科目名	シャシ整備		講義	必修	
担当教員名	開講年次	単位数	時間数		
焼田 健二	2年	4	60時間		
前職:自動車整備士			90分×30回		
授業の目的・概要					
自動車の各部位を構成する装置及び部品又車両全体を総合的に、点検・整備する方法、技術的ポイント及びその必要性を講義を通じて学び、整備士として個々の車両に適切な整備を行う知識を養う。					
授業における学修の到達目標					
自動車及び二輪自動車の整備に必要な知識を習得する。					
成績評価方法。基準					
定期試験の点数で評価する。授業態度や提出物について加点する場合がある。					
授業計画			授業外の学修の内容		
1	オリエンテーション	16	ブレーキ装置	準備学習の内容・時間 授業に使用するテキスト等で必要に応じて予習をする。(30時間)	
2	走行装置	17	ブレーキ装置		
3	走行装置	18	ブレーキ装置		
4	走行装置	19	ブレーキ装置	事後学修内容・時間 授業内容をレポートにまとめる等資料を整理し復習をする。(30時間)	
5	動力伝達装置	20	ブレーキ装置		
6	動力伝達装置	21	ブレーキ装置		
7	動力伝達装置	22	安全装置		
8	動力伝達装置	23	安全装置		
9	動力伝達装置	24	安全装置		
10	動力伝達装置	25	フレーム・ボデー		
11	アクスル及びサスペンション	26	フレーム・ボデー		
12	アクスル及びサスペンション	27	フレーム・ボデー		
13	アクスル及びサスペンション	28	総括		
14	アクスル及びサスペンション	29	総括		
15	アクスル及びサスペンション	30	総括		
テキスト					
二級自動車整備士(総合) (日本自動車整備振興会連合会)					
参考書・その他					
シャシ構造Ⅰ (全国自動車整備専門学校協会)					
シャシ構造Ⅱ (全国自動車整備専門学校協会)					
実力判定問題集					

科目名	電装整備		講義	必修
担当教員名		開講年次	単位数	時間数
岩田 敏裕		1年	2	30時間 90分×15回
前職:自動車整備士				
授業の目的・概要				
自動車の各部位を構成する装置及び部品又車両全体を総合的に、点検・整備する方法、技術的ポイント及びその必要性を講義を通じて学び、整備士として個々の車両に適切な整備を行う知識を養う。				
授業における学修の到達目標				
自動車の各部位を構成する装置及び部品又車両全体を総合的に、点検・整備する方法、技術的ポイント及びその必要性を講義を通じて学び、整備士として個々の車両に適切な整備方法について習得する。				
成績評価方法。基準				
定期試験、平常点(出席、授業態度、レポート、小テスト等)の内容を総合的に評価する。 定期試験70%、平常点30% 尚、定期試験に変えて、レポートを求めることもある。				
授業計画			授業外の学修の内容	
1 オリエンテーション			準備学習の内容・時間	
2 自動車の構造と電気の関係			教科書、配布資料、参考文献を使用し必要に応じて予習をする。	
3 電気装置取り扱い時の注意点			(15時間)	
4 電装整備の注意点				
5 電気・電子部品の修理方法			事後学修内容・時間	
6 回路図、配線図のきまり			小テストや配布資料を使い復習する。授業の内容をレポートにまとめる。(15時間)	
7 エンジン電装品の整備				
8 電子制御装置の整備				
9 HV,EV取り扱い時の注意点				
10 シャン電装品の整備				
11 ボデー電装				
12 取り外し、取り付けの要点、注意点				
13 OBD,外部診断器、CAN				
14 FAINESについて				
15 最新の装備品について まとめ				
テキスト				
三級自動車整備士(総合)		(日本自動車整備振興会連合会)		
二級自動車整備士(総合)		(日本自動車整備振興会連合会)		
参考書・その他				
FAINES		(日本自動車整備振興会連合会 HP)		

科目名	故障原因探求	講義	必修
-----	--------	----	----

担当教員名	開講年次	単位数	時間数
番留 智広	2年	4	60時間 90分×30回
前職:自動車整備士			

授業の目的・概要
自動車の機能・性能が高度化するとともに、コンピュータ制御される現代の自動車において故障原因を探求する技術は整備士にとって必要な技術である。ここでは故障現象とその探求方法を幅広く学び、第一線で活用出来る知識を身につける。

授業における学修の到達目標
各装置における故障現象とその探求方法を幅広く学ぶ。

成績評価方法。基準
定期試験100%の中で出席、授業態度及びレポートに掛かる平常点を加点10%～減点10%により総合評価

授業計画			授業外の学修の内容
1	故障原因探究についての概要	16	準備学習の内容・時間 テキストや参考書・その他を使用しながら予習をし分からない所を確認する。 (30時間)
2	ガソリンエンジンの故障と探求 三要素について	17	
3	ガソリンエンジンの故障と探求 始動困難について	18	
4	ガソリンエンジンの故障と探求 アイドリング不調	19	
5	ガソリンエンジンの故障と探求 出力不足、加速不良	20	
6	ガソリンエンジンの故障と探求 エンジンより異音	21	事後学修内容・時間 ノートを使い復習する。授業の内容をレポートにまとめる。(30時間)
7	ガソリンエンジンの故障と探求 オイル消費、燃費	22	
8	電子制御エンジンの故障と探求 基本的な考え方	23	
9	電子制御エンジンの故障と探求 自己診断機能	24	
10	電子制御エンジンの故障と探求 特有の点検	25	
11	電子制御エンジンの故障と探求 始動困難	26	
12	電子制御エンジンの故障と探求 アイドリング不調	27	
13	電子制御エンジンの故障と探求 エンジンエンスト	28	
14	電子制御エンジンの故障と探求 その他不具合	29	
15	まとめ	30	

テキスト
自動車の故障と探究 (全国自動車整備専門学校協会)

参考書・その他
三級自動車整備士(総合) (日本自動車整備振興会連合会)

科目名	電子制御装置		講義	必修
担当教員名	開講年次	単位数	時間数	
村上 昭仁	2年	1	16時間	
前職:自動車整備士			90分×8回	
授業の目的・概要				
ハイブリッド自動車及び電気自動車、先進安全技術についての仕組み、種類、構造、機能を学ぶ。				
授業における学修の到達目標				
ハイブリッド自動車及び電気自動車、先進安全技術についての仕組み、種類、構造、機能を習得する。				
成績評価方法。基準				
定期試験の点数を中心に平常点(課題プリント、レポートやノートの提出とその評価、出席及び授業態度)を総合的に評価する。試験100%、平常点10%の範囲で、総合的に評価する。				
授業計画		授業外の学修の内容		
1 オリエンテーション、低圧の電気に関する基礎知識(3級)		準備学習の内容・時間		
2 第7章 ハイブリッド自動車及び電気自動車(2級)		教科書、配布資料、参考文献を使用し必要に応じて予習をする。		
3 第7章 ハイブリッド自動車及び電気自動車(2級)		(8時間)		
4 第7章 ハイブリッド自動車及び電気自動車(2級)		事後学修内容・時間		
5 IX安全装置(3級)		小テストや配布資料を使い復習する。授業の内容をレポートにまとめる。		
6 第8章 先進安全技術(2級)		(8時間)		
7 第8章 先進安全技術(3級)				
8 まとめ				
テキスト				
三級自動車整備士(総合)		(日本自動車整備振興会連合会)		
二級自動車整備士(総合)		(日本自動車整備振興会連合会)		
参考書・その他				
FAINES		(日本自動車整備振興会連合会 HP)		

科目名	自動車法規		講義	必修
担当教員名	開講年次	単位数	時間数	
岩田 敏裕	2年	2	30時間	
前職:自動車整備士			90分×15回	
授業の目的・概要				
テキストを中心に講義形式で進め、自動車法規の車両法と保安基準について学習する。				
授業における学修の到達目標				
自動車法規の車両法と保安基準について2級整備士として必要な内容を理解する。				
成績評価方法。基準				
定期試験、平常点(出席、授業態度、レポート、小テスト等)の内容を総合的に評価する。 定期試験70%、平常点30% 尚、定期試験に変えて、レポートを求めることもある。				
授業計画			授業外の学修の内容	
1 道路運送車両法(自動車の種類・登録制度)			準備学習の内容・時間	
2 道路運送車両法(認証・指定制度・その他)			教科書、配布資料、参考文献を使用し必要に応じて予習をする。	
3 道路運送車両法について、確認テスト			(15時間)	
4 保安基準について(自動車の構造)			事後学修内容・時間	
5 保安基準について(自動車の装置・原動機及びシャシ)			小テストや配布資料を使い復習する。授業の内容をレポートにまとめる。(15時間)	
6 保安基準について(自動車の装置・車体)				
7 保安基準について(自動車の構造・公害防止)				
8 保安基準について(自動車の構造・灯火装置①)				
9 保安基準について(自動車の構造・灯火装置②)				
10 保安基準について(自動車の構造・運転装置)				
11 保安基準について確認テスト				
12 保安基準について確認テスト				
13 保安基準について確認テスト				
14 まとめテスト				
15 まとめテスト				
テキスト				
法令教本 (自動車公論社)				
参考書・その他				
二級自動車整備士(総合) (日本自動車整備振興会連合会)				
特定整備記録簿、指定整備記録簿				
自動車定期点検整備の手引き (日本自動車整備振興会連合会)				

科目名	自動車検査		講義	必修
担当教員名	開講年次	単位数	時間数	
岩田 敏裕	2年	2	30時間	
前職:自動車整備士			90分×15回	
授業の目的・概要				
テキストを中心に講義形式で進め、保安基準適合性確保の点検、整備を学ぶ。				
授業における学修の到達目標				
保安基準適合性確保の点検、整備内容と方法を習得する。				
成績評価方法。基準				
定期試験、平常点(出席、授業態度、レポート、小テスト等)の内容を総合的に評価する。 定期試験70%、平常点30%				
授業計画			授業外の学修の内容	
1 オリエンテーション			準備学習の内容・時間	
2 道路運送車両法(保安基準・点検整備制度) 日常点検整備			教科書、配布資料、参考文献を使用し必要に応じて予習をする。 (15時間)	
3 道路運送車両法(点検整備制度) 定期点検整備				
4 道路運送車両法(点検整備制度) 点検整備記録簿 ・特定整備の定義				
5 道路運送車両法(検査制度)			事後学修内容・時間	
6 道路運送車両法(検査制度)			小テストや配布資料を使い復習する。授業の内容をレポートにまとめる。(15時間)	
7 道路運送車両法、2～6回の内容について確認テスト				
8 保安基準について(査定士関連抜粋)				
9 保安基準について(査定士関連抜粋)				
10 保安基準適合性確保の点検				
11 定期点検・点検要領・記録簿他書類記入作成要グループワーク				
12 定期点検・点検要領・記録簿他書類記入作成要グループワーク				
13 定期点検・点検要領・記録簿他書類記入作成要グループワーク				
14 メンテナンスアドバイス				
15 総括				
テキスト				
法令教本		(自動車公論社)		
自動車定期点検整備の手引き		(日本自動車整備振興会連合会)		
二級自動車整備士(総合)		(日本自動車整備振興会連合会)		
参考書・その他				
三級自動車整備士(総合)		(日本自動車整備振興会連合会)		
特定整備記録簿、指定整備記録簿				

科目名	エンジン整備作業A			実習	必修
-----	-----------	--	--	----	----

担当教員名	開講年次	単位数	時間数
村上 昭仁	1年	4	180時間 90分×90回
前職:自動車整備士			

授業の目的・概要
自動車のエンジンについて、実車、単体部品等を使用して、構造、作動及び整備方法を学ぶ。

授業における学修の到達目標
エンジンの構造と各部の機能を学び、分解、点検、整備の技術を習得する。 主体的に考える姿勢を育て、技術を習得しつつ、出来た喜びを体験する。

成績評価方法。基準
定期試験の点数を中心に平常点(課題プリント、レポートやノートの提出とその評価、出席及び授業態度)を総合的に評価する。試験100%、平常点10%の範囲で、総合的に評価する。

授業計画	授業外の学修の内容
1～3 オリエンテーション、エンジン本体整備 4～6 エンジン本体整備 7～9 エンジン本体整備 10～12 エンジン本体整備 13～15 潤滑装置整備 16～18 潤滑装置整備 19～21 冷却装置整備 22～24 冷却装置整備 25～27 吸排気装置整備 28～30 吸排気装置整備 31～33 燃料装置整備 34～36 電子制御装置整備 37～39 電子制御装置整備 40～42 排気ガス浄化装置 43～45 まとめ	準備学習の内容・時間 教科書、配布資料、参考文献を使用し必要に応じて予習をする。 (90時間) 事後学修内容・時間 小テストや配布資料を使い復習する。授業の内容をレポートにまとめる。 (90時間)
46～48 オリエンテーション、エンジン本体整備 49～51 エンジン本体整備 52～54 エンジン本体整備 55～57 エンジン本体整備 58～60 潤滑装置整備 61～63 潤滑装置整備 64～66 冷却装置整備 67～69 冷却装置整備 70～72 吸排気装置整備 73～75 燃料装置整備 76～78 電子制御装置整備 79～81 電子制御装置整備 82～84 電子制御装置整備 85～87 排気ガス浄化装置 88～90 予熱装置	

テキスト
三級自動車整備士(総合) (日本自動車整備振興会連合会) 二級自動車整備士(総合) (日本自動車整備振興会連合会)

参考書・その他
ガソリンエンジン構造 (全国自動車整備専門学校協会) ディーゼルエンジン構造 (全国自動車整備専門学校協会) FAINES (日本自動車整備振興会連合会 HP)

科目名	エンジン整備作業B	実習	必修
-----	-----------	----	----

担当教員名	開講年次	単位数	時間数
杉崎 健朗	2年	4	180時間 90分×90回
前職:自動車整備士			

授業の目的・概要
ガソリンエンジンをオーバーホールしながら、これまでに学習した内容の理解を深める。点検計測については、他に説明することにより、自身でも再確認する。また、同時進行で、電子制御式燃料噴射装置の部品を確認、作動原理構造基本点検要領を習得する。点検作業の効率を考え、不具合の対応についても習得する。

授業における学修の到達目標
実習・グループワークにて、単体部品・エンジン・実車を使用して、構造、機能を確認しながら効率の良い作業・チームで協力して進め、経験を蓄積する。

成績評価方法・基準
定期試験の点数を中心に、平常点(出席状況、態度、意欲、技術等)を総合的に評価する。 定期試験80%、平常点20%の範囲で評価する。必要に応じレポートを提出させることもある。

授業計画	授業外の学修の内容
1～4 オリエンテーション タイミングベルト脱着	準備学習の内容・時間 教科書、配布資料、参考文献を使用し、必要に応じて予習を行う。 (90時間)
5～8 バルブクリアランス測定	
9～12 電子制御装置の基本点検	事後学修内容・時間 教科書、配布資料、ノート等資料を使い復習する。授業の内容をレポートにまとめる。(90時間)
13～16 電子制御装置の基本点検	
17～20 電子制御装置の基本点検	
21～24 電子制御装置の基本点検	
25～28 エンジンO/H及び 点検・計測作業	
29～32 エンジンO/H及び 点検・計測作業	
33～36 エンジンO/H及び 点検・計測作業	
37～40 エンジンO/H及び 点検・計測作業	
41～44 エンジンO/H及び 点検・計測作業	
45～48 エンジンO/H及び 点検・計測作業	
49～52 エンジン換装作業と エンジン回りの軽作業	
53～56 エンジン換装作業と エンジン回りの軽作業	
57～60 エンジン換装作業と エンジン回りの軽作業	

テキスト
三級自動車整備士(総合) (日本自動車整備振興会連合会)
二級自動車整備士(総合) (日本自動車整備振興会連合会)

参考書・その他
ガソリンエンジン構造 (全国自動車整備専門学校協会)
ディーゼルエンジン構造 (全国自動車整備専門学校協会)
自動車整備工具・機器 (日本自動車整備振興会連合会)

科目名	シャシ整備作業A			実習	必修
-----	----------	--	--	----	----

担当教員名	開講年次	単位数	時間数
焼田 健二	1年	4	180時間 90分×90回
前職:自動車整備士			

授業の目的・概要
自動車シャシについて構造、作動を通じて整備を学ぶ。

授業における学修の到達目標
自動車のシャシ構造と各部の機能を理解するために分解、点検、整備を行い技術を習得する。

成績評価方法。基準
定期試験(実技試験)の点数で評価する。授業態度や提出物について加点する場合がある。

授業計画	授業外の学修の内容
1～2 オリエンテーション 3～4 動力伝達装置 5～6 動力伝達装置 7～8 動力伝達装置 9～10 動力伝達装置 11～12 動力伝達装置 13～14 ブレーキ装置 15～16 ブレーキ装置 17～18 ブレーキ装置 19～20 ブレーキ装置 21～22 ブレーキ装置 23～24 ブレーキ装置 25～26 ブレーキ装置 27～28 ブレーキ装置 29～30 総括	31～34 振り返り 35～38 動力伝達装置 39～42 動力伝達装置 43～46 動力伝達装置 47～50 アクスル及びサスペンション 51～54 アクスル及びサスペンション 55～58 アクスル及びサスペンション 59～62 タイヤ交換 63～66 アクスル及びサスペンション 67～70 アクスル及びサスペンション 71～74 アクスル及びサスペンション 75～78 ホイールアライメント 79～82 ホイールアライメント 83～86 ステアリング装置 87～90 総括
準備学習の内容・時間 授業に使用するテキスト等で必要に応じて予習をする。(90時間)	
事後学修内容・時間 授業内容をレポートにまとめる等資料を整理し復習をする。(90時間)	

テキスト
三級自動車整備士(総合) (日本自動車整備振興会連合会) 二級自動車整備士(総合) (日本自動車整備振興会連合会)

参考書・その他
シャシ構造Ⅰ (全国自動車整備専門学校協会) シャシ構造Ⅱ (全国自動車整備専門学校協会) 修理書

科目名	シャシ整備作業B			実習	必修
-----	----------	--	--	----	----

担当教員名	開講年次	単位数	時間数
焼田 健二	2年	4	180時間 90分×90回
前職:自動車整備士			

授業の目的・概要
自動車シャシについて構造、作動を通じて整備を学ぶ。

授業における学修の到達目標
自動車及び二輪自動車の整備において必要な技術を習得する。

成績評価方法。基準
定期試験(実技試験)の点数で評価する。授業態度や提出物について加点する場合がある。

授業計画	授業外の学修の内容
1～2 オリエンテーション 3～4 タイヤ交換 5～6 タイヤ交換 7～8 動力伝達装置 9～10 動力伝達装置 11～12 動力伝達装置 13～14 動力伝達装置 15～16 動力伝達装置 17～18 動力伝達装置 19～20 動力伝達装置 21～22 動力伝達装置 23～24 走行装置 25～26 走行装置 27～28 走行装置 29～30 総括	31～34 オリエンテーション 35～38 動力伝達装置 39～42 動力伝達装置 43～46 動力伝達装置 47～50 動力伝達装置 51～54 動力伝達装置 55～58 動力伝達装置 59～62 動力伝達装置 63～66 動力伝達装置 67～70 動力伝達装置 71～74 動力伝達装置 75～78 課題研究 79～82 課題研究 83～86 課題研究 87～90 総括
準備学習の内容・時間 授業に使用するテキスト等で必要に応じて予習をする。(90時間)	
事後学修内容・時間 授業内容をレポートにまとめる等資料を整理し復習をする。(90時間)	

テキスト
三級自動車整備士(総合) (日本自動車整備振興会連合会) 二級自動車整備士(総合) (日本自動車整備振興会連合会)

参考書・その他
シャシ構造Ⅰ (全国自動車整備専門学校協会) シャシ構造Ⅱ (全国自動車整備専門学校協会) 修理書

科目名		電装整備作業A		実習	必修
担当教員名		開講年次	単位数	時間数	
番 留 智 広		1 年	4	180時間	
前職:自動車整備士				90分×90回	
授業の目的・概要					
電気・電子部品、電気回路の基礎を学び、その後バッテリー・始動装置・充電装置・点火装置の構造・作動及び点検・整備方法について学ぶ。					
授業における学修の到達目標					
電気・電子部品、電気回路の基礎を理解しエンジン電気装置の点検・整備方法を修得する。					
成績評価方法。基準					
定期試験100%の中で出席、授業態度及びレポートに掛かる平常点を加点10%～減点10%により総合評価する。					
授業計画			授業外の学修の内容		
1～3	オリエンテーション 車両及び配線の取り扱い	46～48	バッテリーについて 構造確認	準備学習の内容・時間	
4～6	デジタルテスターの使い方	49～51	バッテリーについて バッテリーの点検作業	テキストや参考書・その他を使用しながら予習をし分からない所を確認する。 (30時間)	
7～9	電流・電圧・抵抗の測定の仕方	52～54	バッテリーについて 車両での点検及び救援法		
10～12	スイッチ付き回路について	55～57	始動装置について 直結型の分解・組付け・点検		
13～15	リレー付きスイッチ回路について	58～60	始動装置について P型の分解・組付け・点検		
16～18	電気回路の不具合探求について	61～63	始動装置について 吸引・保持・戻りの点検	事後学修内容・時間	
19～21	配線図を使用した 車両回路の点検について	64～66	始動装置について 各点検から不具合箇所推定	実習で配布したプリントを使い復習する。授業の内容をレポートにまとめる。(30時間)	
22～24	車両ヘッドライト回路の点検、測定	67～69	始動装置について ベンチテストと性能特性		
25～27	車両ヘッドライト 回路不具合の点検について	70～72	充電装置について オルタネータ分解・組付け・点検		
28～30	車両ヘッドライト 回路不具合の点検について	73～75	充電装置について オルタネータの車上点検		
31～33	磁気的基础 電磁誘導・相互誘導について	76～78	充電装置について ベンチテスト、性能試験		
34～36	半導体の基礎 ダイオード・ツェナダイオードについて	79～81	点火装置について 部品名称、役割について		
37～39	半導体の基礎 トランジスタ・その他半導体について	82～84	点火装置について 点火時期点検、進角、遅角		
40～42	半導体の基礎 半導体を使った回路・論理回路	85～87	点火装置について 外部診断器を用いた点検作業		
43～45	まとめ	88～90	まとめ		
テキスト					
電装品構造		(全国自動車整備専門学校協会)			
参考書・その他					
三級自動車整備士(総合)		(日本自動車整備振興会連合会)			
二級自動車整備士(総合)		(日本自動車整備振興会連合会)			

科目名	電装整備作業B	実習	必修
-----	---------	----	----

担当教員名	開講年次	単位数	時間数
村上 昭仁	2年	3	140時間 90分×70回
前職:自動車整備士			

授業の目的・概要
自動車のシャシ電気装置の構造、作動及び整備方法を学ぶ。

授業における学修の到達目標
自動車のシャシ電気装置の構造と各部の機能を学び、分解、点検、整備の技術を習得する。 主体的に考える姿勢を育て、技術を習得しつつ、出来た喜びを体験する。

成績評価方法。基準
定期試験の点数を中心に平常点(課題プリント、レポートやノートの提出とその評価、出席及び授業態度)を総合的に評価する。試験100%、平常点10%の範囲で、総合的に評価する。

授業計画				授業外の学修の内容
1～3	オリエンテーション	46～47	オリエンテーション	準備学習の内容・時間 教科書、配布資料、参考文献を使用し必要に応じて予習をする。 (70時間)
4～6	灯火装置整備	48～49	灯火装置整備	
7～9	灯火装置整備	50～51	灯火装置整備	事後学修内容・時間 小テストや配布資料を使い復習する。授業の内容をレポートにまとめる。 (70時間)
10～12	灯火装置整備	52～53	灯火装置整備	
13～15	計器整備	54～55	計器整備	
16～18	計器整備	56～57	計器整備	
19～21	計器整備	58～59	計器整備	
22～24	冷暖房装置整備	60～61	冷暖房装置整備	
25～27	冷暖房装置整備	62～63	冷暖房装置整備	
28～30	冷暖房装置整備	64～65	冷暖房装置整備	
31～33	冷暖房装置整備	66	冷暖房装置整備	
34～36	ホーン、ウインドウシールド・ワイパ及びウォッシャ整備	67	ホーン、ウインドウシールド・ワイパ及びウォッシャ整備	
37～39	安全装置整備	68	安全装置整備	
40～42	安全装置整備	69	安全装置整備	
43～45	まとめ	70	まとめ	

テキスト
三級自動車整備士(総合) (日本自動車整備振興会連合会)
二級自動車整備士(総合) (日本自動車整備振興会連合会)

参考書・その他
電装品構造 (全国自動車整備専門学校協会)
FAINES (日本自動車整備振興会連合会 HP)

科目名	故障原因探求	実習	必修
-----	--------	----	----

担当教員名	開講年次	単位数	時間数
番留 智広	2年	4	180時間 90分×90回
前職:自動車整備士			

授業の目的・概要
実車やベンチエンジンを使用して不具合現象を確認し、必要な点検を選択して行い推定箇所の絞り込みから原因特定までの作業を学ぶ。

授業における学修の到達目標
不具合の現象確認から原因特定に至るまで必要とされるトラブルシューティングを行うことが出来る技能を修得する。

成績評価方法。基準
定期試験100%の中で出席、授業態度及びレポートに掛かる平常点を加点10%～減点10%により総合評価する。

授業計画	授業外の学修の内容
1～3 ガソリンエンジン故障探求 基本的な点検作業 4～6 ガソリンエンジン故障探求 特有な診断作業 7～9 ガソリンエンジン故障探求 始動不良診断 10～12 ガソリンエンジン故障探求 エンジン不調診断 13～15 ガソリンエンジン故障探求 エンジン振動診断 16～18 電子制御装置故障探求 自己診断機能 19～21 電子制御装置故障探求 各センサデータ収集① 22～24 電子制御装置故障探求 各センサデータ収集② 25～27 電子制御装置故障探求 各アクチュエータ確認 28～30 電子制御装置故障探求 ECU電源、FP回路 31～33 電子制御装置故障探求 始動不良診断 34～36 電子制御装置故障探求 エンジン不調診断 37～39 電子制御装置故障探求 エンジンエンスト診断 40～42 ガソリンエンジン全体の 故障探求診断 43～45 まとめ	準備学習の内容・時間 テキストや参考書・その他を使用しながら予習をし分からない所を確認する。 (30時間) 事後学修内容・時間 実習で配布したプリントを使い復習する。授業の内容をレポートにまとめる。(30時間)

テキスト
自動車故障と探究 (全国自動車整備専門学校協会)

参考書・その他
三級自動車整備士(総合) (日本自動車整備振興会連合会) 二級自動車整備士(総合) (日本自動車整備振興会連合会) 各車両修理書、配線図

科目名	電子制御装置作業		実習	必修
担当教員名	開講年次	単位数	時間数	
村上 昭仁	2年	1	48時間	
前職:自動車整備士			90分×24回	
授業の目的・概要				
ハイブリッド自動車及び電気自動車、先進安全技術についての構造、作動及び整備、調整方法を学ぶ。				
授業における学修の到達目標				
ハイブリッド自動車及び電気自動車の構造と各部の機能を学び、分解、点検、調整及び整備方法の技術を習得する。				
主体的に考える姿勢を育て、技術を習得しつつ、出来た喜びを体験する。				
成績評価方法。基準				
定期試験の点数を中心に平常点(課題プリント、レポートやノートの提出とその評価、出席及び授業態度)を総合的に評価する。試験100%、平常点10%の範囲で、総合的に評価する。				
授業計画			授業外の学修の内容	
1	オリエンテーション、低圧の電気に関する基礎知識		準備学習の内容・時間	
2	ハイブリッド自動車及び電気自動車整備		教科書、配布資料、参考文献を使用し必要に応じて予習をする。 (24時間)	
3	ハイブリッド自動車及び電気自動車整備			
4	ハイブリッド自動車及び電気自動車整備		事後学修内容・時間	
5	ハイブリッド自動車及び電気自動車整備			
6	ハイブリッド自動車及び電気自動車整備		小テストや配布資料を使い復習する。授業の内容をレポートにまとめる。 (24時間)	
7	ハイブリッド自動車及び電気自動車整備			
8	ハイブリッド自動車及び電気自動車整備			
9～10	安全装置整備			
11～12	安全装置整備			
13～15	先進安全技術整備			
16～18	先進安全技術整備			
19～21	先進安全技術整備			
22～23	先進安全技術整備			
24	まとめ			
テキスト				
三級自動車整備士(総合)		(日本自動車整備振興会連合会)		
二級自動車整備士(総合)		(日本自動車整備振興会連合会)		
参考書・その他				
FAINES		(日本自動車整備振興会連合会 HP)		

科目名	自動車検査作業		実習	必修
担当教員名		開講年次	単位数	時間数
岩田 敏裕		2年	1	60時間 90分×30回
前職:自動車整備士				
授業の目的・概要				
実習形式で進め、自動車検査、定期点検の点検方法について学習する。				
授業における学修の到達目標				
6か月・1年・2年点検を効率よく正確に実施することが出来る。				
成績評価方法。基準				
定期試験、平常点(出席、授業態度、レポート、小テスト等)の内容を総合的に評価する。 定期試験70%、平常点30%				
授業計画			授業外の学修の内容	
1～2 日常点検			準備学習の内容・時間	
3～4 法定24か月点検 ステアリング装置			教科書、配布資料、参考文献を使用し必要に応じて予習をする。 (30時間)	
5～6 法定24か月点検 ブレーキ装置				
7～8 同上 サスペンション			事後学修内容・時間	
9～10 同上 電気装置				
11～12 同上 エンジン			小テストや配布資料を使い復習する。授業の内容をレポートにまとめる。(30時間)	
13～14 同上 公害ガス排出防止装置				
15～16 付属装置				
17～18 検査ライン取り扱い				
19～20 検査ライン取り扱い				
21～22 検査ライン取り扱い				
23～24 点検手順				
25～26 点検手順				
27～28 点検手順				
29～30 点検手順				
テキスト				
自動車定期点検整備の手引			(日本自動車整備振興会連合会)	
三級自動車整備士(総合)			(日本自動車整備振興会連合会)	
二級自動車整備士(総合)			(日本自動車整備振興会連合会)	
参考書・その他				
法令教本			(自動車公論社)	
特定整備記録簿				
指定整備記録簿				

科目名	基礎整備		講義	必修
担当教員名	開講年次	単位数	時間数	
岩田 敏裕	1年	2	30時間	
前職:自動車整備士			90分×15回	
授業の目的・概要				
自動車整備作業測定・機器の基本的な使用方法と測定方法を習得する。				
授業における学修の到達目標				
自動車整備作業測定・機器の基本的な使用方法と測定方法を理解し、作業を実施できる。				
成績評価方法。基準				
定期試験、平常点(出席、授業態度、レポート、小テスト等)の内容を総合的に評価する。 定期試験70%、平常点30% 尚、定期試験に変えて、レポートを求めることもある。				
授業計画			授業外の学修の内容	
1 オリエンテーション			準備学習の内容・時間	
2 自動車の諸元			教科書、配布資料、参考文献を使用し必要に応じて予習をする。	
3 自動車及び部品の取り扱いと注意点			(15時間)	
4 計測概論				
5 整備工具			事後学修内容・時間	
6 整備工具			小テストや配布資料を使い復習する。授業の内容をレポートにまとめる。(15時間)	
7 整備作業用機器				
8 整備作業用機器				
9 一般測定器				
10 一般測定器				
11 エンジン点検・調整機器				
12 電気装置点検・調整機器				
13 車両点検・調整機器				
14 車体整備用機器				
15 まとめ				
テキスト				
自動車整備工具・機器		(全国自動車整備専門学校協会)		
三級自動車整備士(総合)		(日本自動車整備振興会連合会)		
参考書・その他				
安全衛生				
二級自動車整備士(総合)		(日本自動車整備振興会連合会)		

科目名	自動車検査機器		講義	必修
担当教員名	開講年次	単位数	時間数	
杉崎 健朗	1年	2	30時間	
前職:自動車整備士			90分×15回	
授業の目的・概要				
自動車用検査機器の基本的な使用方法と測定方法を習得する。				
授業における学修の到達目標				
自動車の調整や検査に用いる機器の使用方法和判断基準について学習し、正しい測定を習得する。				
成績評価方法。基準				
定期試験の点数を中心に、出席状況、意欲、態度等により試験80%、平常点20%の範囲で総合的に評価する。またレポートを求める事もある。				
授業計画		授業外の学修の内容		
1 オリエンテーション		準備学習の内容・時間		
2 ホイールアライメント		教科書、配布資料、参考文献を使用し、必要に応じて予習を行う。		
3 ホイルアライメント、タイヤ		(15時間)		
4 キャンバーキャスタキングピンゲージ				
5 ホイルアライメントテスト、シャシダイナモ		事後学修内容・時間		
6 検査機器の概要		教科書、配布資料、ノート等資料を使い復習する。授業の内容をレポートにまとめる。(15時間)		
7 サイドスリップテスト				
8 ブレーキテスト				
9 スピードメータテスト				
10 ヘッドライトテスト				
11 排ガステスタ				
12 黒煙測定器、オパシメータ				
13 音量計				
14 まとめ				
15 定期試験				
テキスト				
自動車整備工具・機器		(全国自動車整備専門学校協会)		
参考書・その他				
二級自動車整備士(総合)		(日本自動車整備振興会連合会)		

科目名	基礎整備作業		実習	必修
担当教員名	開講年次	単位数	時間数	
岩田 敏裕	1年	1	45時間	
前職:自動車整備士			90分×23回	
授業の目的・概要				
自動車整備作業測定・機器の基本的な使用方法と測定方法を習得する。				
授業における学修の到達目標				
実習形式で進め、自動車整備作業工具、測定・計測機器を使用出来る。				
成績評価方法。基準				
定期試験、平常点(出席、授業態度、レポート、小テスト等)の内容を総合的に評価する。 定期試験70%、平常点30% 尚、定期試験に変えて、レポートを求めることもある。				
授業計画			授業外の学修の内容	
1～2	工具 手工具の名称、使い方、注意点	18～19	その他の機器 温水洗浄機 電動ポリッシャー取り扱い、注意点	準備学習の内容・時間 教科書、配布資料、参考文献を使用し必要に応じて予習をする。 (20時間)
3	工具 ボルトの強度、締め方、緩め方			
4～6	作業用機器 タイヤ交換方法、ジャッキアップ、リフトアップのやり方	20～21	エンジン点検・調整機器 回転計等取り扱い 注意点	事後学修内容・時間 小テストや配布資料を使い復習する。授業の内容をレポートにまとめる。(20時間)
7～9	電気装置点検・調整機器 サーキット・テスター作成 半田ごての使い方、注意点			
10～12	車体整備用機器 ガス溶接機 使い方、注意点	22	修理書・配線図の見方 注意点	
13～15	一般測定器 名称、取り扱い、注意点	23	まとめ	
16～17	車両点検・調整機器 タイヤチェンジャー タイヤバランス取り扱い、注意点			
テキスト				
自動車整備工具・機器		(全国自動車整備専門学校協会)		
三級自動車整備士(総合)		(日本自動車整備振興会連合会)		
二級自動車整備士(総合)		(日本自動車整備振興会連合会)		
参考書・その他				
安全衛生		(雇用問題研究会)		

科目名	特別講習 I	演習	必修
-----	--------	----	----

担当教員名	開講年次	単位数	時間数
番留 智広	1年	1	45時間 90分×23回
前職:自動車整備士			

授業の目的・概要
教育課程における技能・技術の向上、業界において必要とされる知識、ならびに職業観を育くみ 新技術・知識を学ぶ。

授業における学修の到達目標
教育課程における技能・技術の向上、業界における知識、職業観を育くみ、 新技術・知識の修得を目指し職業実践的な技術を習得する。

成績評価方法。基準
各企業演習評価及び平常点(課題プリント、レポートやノートの提出とその評価、出席及び授業態度)を 総合的評価する。各企業演習評価100%、平常点10%の範囲で総合的に評価する

授業計画				授業外の学修の内容
1	スズキフレッシュマン講習	16	スズキ技術講習	準備学習の内容・時間 教科書、配布資料、参考文献を使用し必要に応じて予習をする。 (30時間)
2	スズキフレッシュマン講習	17	いすゞ技術講習	
3	日産技術講習	18	いすゞ技術講習	
4	日産技術講習	19	トヨタ技術講習	
5	トヨタ板金技術講習	20	トヨタ技術講習	事後学修内容・時間
6	トヨタ板金技術講習	21	ダイハツ技術講習	
7	フォルクスワーゲン技術講習	22	ダイハツ技術講習	小テストや配布資料を使い復習する。授業の内容をレポートにまとめる。 (30時間)
8	フォルクスワーゲン技術講習	23	BMW技術講習	
9	日野技術講習	24	BMW技術講習	
10	日野技術講習	25	トヨタL&F技術講習	
11	マツダ技術講習	26	トヨタL&F技術講習	
12	マツダ技術講習	27	メルセデスベンツ技術講習	
13	三菱技術講習	28	メルセデスベンツ技術講習	
14	三菱技術講習	29	福祉車両技術講習	
15	スズキ技術講習	30	福祉車両技術講習	
※授業内容については前年度実績に基づいて記載、本年度の企業側状況により 内容が変更される場合があります				

テキスト
各演習用配布資料等 全国自動車整備専門学校協会各テキスト 日本自動車整備振興会連合会2級・3級各教科書

その他
授業内容については、各企業と連携し講義目的に適応する内容を協議の上、実施することとし、業界 の動向、新技術に対応できるよう調整し、柔軟に対処する。

科目名	特別講習Ⅱ		講義	必修
担当教員名	開講年次	単位数	時間数	
番留 智広	1年	2	30時間	
前職:自動車整備士			90分×15回	
授業の目的・概要				
自動車業界において業務に必要とされる幅広い知識、ならびに技術・技能を学ぶ。				
授業における学修の到達目標				
自動車業界において業務に必要とされる幅広い知識、ならびに技術・技能を習得する。				
成績評価方法。基準				
課題プリント、レポート提出及び平常点(出席及び授業態度)を総合的に評価する。課題プリント、レポート100%、平常点10%の範囲で総合的に評価する。				
授業計画		授業外の学修の内容		
1 お客様対応について(仕事の基本)		準備学習の内容・時間		
2 お客様対応について(仕事の基本)		教科書、配布資料、参考文献を使用し必要に応じて予習をする。		
3 自動車保険 アジャスターについて		(15時間)		
4 自動車保険 アジャスターについて		事後学修内容・時間		
5 自動車産業について		小テストや配布資料を使い復習する。授業の内容をレポートにまとめる。		
6 自動車産業について		(15時間)		
7 特殊車両について				
8 特殊車両について				
9 各自動車メーカー新型車両、新機構・技術について				
10 各自動車メーカー新型車両、新機構・技術について				
11 各自動車メーカー新型車両、新機構・技術について				
12 各自動車メーカー新型車両、新機構・技術について				
13 企業研究について				
14 企業研究について				
15 企業研究について				
テキスト				
各講義配布資料等				
参考書・その他				
授業内容については、各企業・団体等と連携し内容を協議の上、実施することとする。				

科目名	ビジネスマナー		講義	必修
担当教員名	開講年次	単位数	時間数	
番留 智広	1年	2	30時間	
前職:自動車整備士			90分×15回	
授業の目的・概要				
社会人としての基本的なマナーや接客業における基礎、さらに就職活動に向けての知識・対策を学ぶ。				
授業における学修の到達目標				
社会人としての基本的なマナーや接客業における基礎、さらに就職活動に向けての知識・対策を習得することを目標とする。				
成績評価方法。基準				
課題プリント、レポート提出及び平常点(出席及び授業態度)を総合的評価する。課題プリント、レポート80%、平常点20%				
授業計画		授業外の学修の内容		
1 オリエンテーション 就職活動の流れ		準備学習の内容・時間		
2 履歴書 学歴・職歴		教科書、配布資料、参考文献を使用し必要に応じて予習をする。		
3 履歴書 学歴・職歴		(15時間)		
4 自己分析シート				
5 自己分析シート				
6 自己分析シート		事後学修内容・時間		
7 自己分析シート		小テストや配布資料を使い復習する。授業の内容をレポートにまとめる。		
8 自己分析シート		(15時間)		
9 自己分析シート				
10 履歴書 志望動機				
11 履歴書 志望動機				
12 履歴書 志望動機				
13 就職セミナー				
14 面接練習				
15 面接練習				
テキスト				
「内定の手引き」				
参考書・その他				
授業の中で適時紹介する。				